

平成28年第9回函館市教育委員会定例会 会議録

- 1 日 時 平成28年9月28日(水) 午後1時30分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席委員 橋田委員長, 小葉松委員, 佐藤委員, 須田委員, 山本委員
- 4 欠席委員
- 5 事務局 小林生涯学習部長, 木村学校教育部長, 佐藤生涯学習部次長,
鶴喰生涯学習部次長, 阿部管理課長, 寺本教育指導課長
- 6 傍聴者 なし
- 7 付議事項
- 日程第1 議案第1号 教職員の懲戒処分の内申に関し, 議決を求めることについて
- 日程第2 議案第2号 平成28年度全国学力・学習状況調査結果の公表に関し, 議決を
求めることについて
- 日程第3 議案第3号 旧古武井小学校の敷地の変更に関し, 議決を求めることについて
- 日程第4 協議事項 開かれた教育委員会の展開について
(1)学力向上について

■橋田委員長

- 開会宣言 午後1時30分
- 議事録署名人に, 小葉松委員, 佐藤委員を選任。
- 本日の日程のうち, 日程第1, 議案第1号「教職員の懲戒処分内申に関し, 議決を求め
ることについて」を「秘密会」としたいがいかがか。
- 異議がないので, 秘密会とさせていただきます。

- それでは, 日程第1, 議案第1号「教職員の懲戒処分の内申に関し, 議決を求めること
について」を諮る。

(秘密会につき, 会議録省略)

- 議案第1号は, 原案のとおり可決する。
- 次に, 日程第2, 議案第2号「平成28年度全国学力・学習状況調査結果の公表に関
し, 議決を求めることについて」を諮る。

■学校教育部長

- まず, 今年度の「全国・学力学習状況調査」の結果概要について報告する。小学校にお
いては, すべての科目で全道平均を上回り, 中学校においては, 数学B以外で全道平均を
上回っている。
- 全国の平均正答率と比べると, 中学校国語A以外は全国平均を下回っているが, 最大で
小学校算数Bの-2.2%である。問題数で見ると, いずれも0.1問から0.3問の差

となっており、わずかな差である。平成19年度から今年度までの全国平均正答率との差の推移については、年度によって波はあるものの、平成26年度くらいからは、大きく差が開く状況は見られなくなり、全国との差は縮まってきていると捉えることができる。

- 次に、中学3年生が小学6年生だった時の結果を比較すると、小学6年生の時は全国平均を-1.8～-5.5%下回る状況であったが、今年度は、全国平均との差は、+0.1～1.6%と大きく改善され、全国平均との差が縮まっている。
- 次に、無回答率の状況を見てみると、全国、全道、本市とも年度ごと同じような傾向になっているが、本市においては、全国、全道に比べると無回答率はやや低い傾向にあり、本市の子どもたちが、あきらめずに粘り強く回答していることが読み取れる。
- 以上のことから、函館市の学力の状況については、小・中学校ともに、全国との差は着実に縮まってきている状況であり、全国とほぼ同程度と言える。知・徳・体のバランスの取れた教育活動の推進を基盤としたアプローチに基づいて行ってきた学校教育指導、標準学力検査の継続的な実施、「学力向上プロジェクト推進委員会」による学力分析と授業改善の視点を示す継続的な取り組み、また、各学校における放課後学習や長期休業中の学習会など、つまずきのある子どもに対して丁寧に指導する取り組みや子どもたちが意欲をもって主体的に学習できる探究型の授業の推進、さらに、学習規律の徹底や家庭学習の取り組みなどの成果が現れてきているものと考えている。
- この後、さらに詳細な分析を行い、その結果および、市教委としての取り組み案を次回以降の教育委員会で改めて説明し、その後、市民にも公表する予定である。
- 次に、今年度の本市におけるホームページでの結果の掲載の仕方、9月30日までに返答が必要な北海道教育委員会における報告書への掲載の仕方について説明する。
- 本市の学校教育の目指すところは、函館市義務教育基本計画にかかげる5つの子ども像であり、全国の平均正答率を超えれば、本市の学校教育の目的が達せられるものではないと考えている。しかし、本市が目指す子ども像に近づくためには、本市の子どもたちのよさや課題を分析し、本市全体の児童生徒の状況を表す情報を、できる限り市民とともに共有することは重要であると考えている。そうしたことから、今年度の全国学力・学習状況調査の結果についても、昨年度同様、本市全体の平均正答率等を数値やその他の方法で公表したいと考えている。
- また、道教委に対しては、道教委が示す基本フォーマットに沿って、函館市の調査結果を報告書に掲載することに同意するが、平均正答率を数値で掲載することについては、無用な市町村間の序列化や過度な競争につながる恐れがあることから、昨年度同様、これを行わないことにしたいと考えている。
- 本日の定例会において、結果の掲載の仕方について、決定していただきたい。

■橋田委員長

- 議案第2号について、何かあるか。

(意見なし)

- 議案第2号については、原案のとおり可決する。
- 次に、日程第3、議案第3号「旧古武井小学校の敷地の変更に關し、議決を求めることについて」を諮る。

■生涯学習部長

- 議案第3号、「旧古武井小学校の敷地の変更に關し、議決を求めることについて」を説明する。

- 本議案は、旧古武井小学校の敷地の一部について、教育財産としての用途を廃止し、所管を経済部に引き継ぐことに伴い、敷地面積を変更しようとするものである。
- 現在、旧古武井小学校の敷地は、所在地「高岱町」、地番「68番地1」、土地面積は、13,337.14㎡である。経済部に引き継ぐ土地は、792.00㎡であり、変更後の敷地は、土地面積12,545.14㎡となる。
- なお、この土地については、現在、日商興産株式会社が事業主体となって、北海道電力株式会社向けに売電を行うための、「大規模太陽光発電所」を建設し稼働中であるが、さらにソーラーパネルを増設するための用地として、旧古武井小学校用地の一部を予定しているものである。
- 当該土地については、現在は全く使用していない状況であり、所管替えによる教育活動への支障はないものと判断し、経済部へ引き継ごうとするものである。

■橋田委員長

- 議案第3号について、何かあるか。

■佐藤委員

- 今回引き継ぐ以外の土地は今後どうするのか。

■生涯学習部長

- 現在は、教育委員会が所管しているが、今後、用途が決まった時点で財産の引き継ぎなどをするようになる。

■橋田委員長

- 議案第3号は、原案のとおり可決する。
- 次に、日程第4、協議事項「開かれた教育委員会の展開について」であるが議案第2号において、今年度の全国学力・学習状況調査の結果の概要について、学校教育部長から説明があったところである。今年度の結果の概要を踏まえ、あらためて学力向上について委員間協議を行いたい、各委員から何か意見等あるか。

■佐藤委員

- 全国との差が問題数でいうと、1間に満たない程度の差ということで、各学校での取り組みがきちんとなされていると捉えている。下位層の子どもたちの底上げをどのように行うかによって、もっと平均点が全国に近づくなり、追い越せるのかなと思う。

■学校教育部長

- 各学校でも、下位層の底上げに力を入れている。放課後学習や長期休暇を活用した補習を行うなどの取り組みをしている。

■佐藤委員

- ある中学校の校長と話をする機会があったが、中学校に入学する段階で九九がわからない子どももいるそうで、朝学習でそのような生徒を集めて重点的に教えている。また、授業中ではなかなか内容を理解できない生徒もいるみたいで、生徒が教員に対する評価をできるように目安箱のようなものを設置して、生徒の声を聴いて、校長が把握し、当該教員に指導しているということをしている。そのような取り組みもあって、当該校は学力が比較的高いのかなと感じた。

■須田委員

- A問題については、補習をすることによって底上げはできると思う。B問題については、設問の意味を理解する力が不足しているのでは、正答率が低いのではないかという気がしている。繰り返し、演習することも必要かと思うが、読書をする時間が子どもたちに足りていないのかなと感じており、読書の時間を増やす取り組みもすべきだと思う。

■学校教育部長

- 読み取る力と表現する力が課題であると認識している。対応策としては、類似した問題に数多く触れさせるようにしている。道教委が配信しているチャレンジテストを活用し、対策を進めているほか、普段の授業で自分の考えを表現させることなどを行っている。

■橋田委員長

- 全国の正答率との比較にばかり注目されるが、教育委員会が進めてきた探究型の授業の徹底、知・徳・体のバランスの取れた取り組みが、学校単位できちんと進められていると感じている。
- 今年度導入した学校教育指導監を導入したが、学力向上に資しているのかということや年度末までにはきちんと検証すべき。また、先ほど、佐藤委員から朝学習について取り組んでいる学校の話がされたが、須田委員が話していた読書に関して話をすると、朝読書の取り組みを大事にしてほしいと思っている。

■山本委員

- 大きな傾向としては、子どもたちの学力は伸びてきていると捉えている。これまでの取り組みを自信を持って続けていきたい。そして、アクティブ・ラーニングを導入した授業改善を推し進めていきたい。また、学校教育指導監の設置、中学校における免許外講師の配置などを今年度から始めた。来年度に向けては、小学校での算数のTT、習熟度別指導など目的に講師を配置したいと考えている。
- 今年度の質問紙の結果はまだ出ていないが、勉強が好きな子は多いはず。しかし、勉強に時間を費やさない傾向がある。なので、アフタースクールもそうだが、放課後における学習の定着が重要になってくる。そういった部分も施策として手厚くする必要があると考えている。

■橋田委員長

- アクティブ・ラーニングの取り組みを進めていく中で、子どもたちが本当に学習が楽しいと思えるような授業ができればよいと思っている。

■小葉松委員

- 話が変わるかもしれないが、偏差値の高い大学に入学すると、人生が順風満帆かというよりそうでなく、私は、医療系なので最近感じるのは、今、医療や介護は需要があるので高校の進路指導でやたらと勧められている。それで、大学に入学してから適正がなくて中途退学するケースが多い。高校卒業後の話になってしまうが、その人ごとに適正をきちんと見極めたうえで進路指導しないとその後で躓いてしまうことがある。子どもたちの未来を考えると、学力の向上ばかりではなく、社会に出たときにどれだけ幸せになれるかということを考えることが、教育の最終的な評価になるのではないと思う。

■須田委員

- 学力向上は意味があると思うが、それだけが目的ではない。読書することは自分の将

来に必ず役に立つことなので、やはり、読書指導に力を入れてはどうかと思う。

■橋田委員長

- 市民憲章に「郷土を愛する函館市民」という言葉があるが、私は常々郷土を愛せない人間は、人間愛を育めないだろう。学校教育の中で学力向上を図ることは大事であると同時に、函館で学ぶ子どもたちに、いずれ函館に関わりを持ってもらう人間になってほしいと思うので、教員が郷土についての理解を深め、子どもたちに教え、函館を愛する子どもたちを育てていけたらと考えている。

■終了宣言

- 午後2時35分

議事録署名人 小葉松 洋 子

〃 佐 藤 敬 一

調製者庶務係 若 崎 友 哉